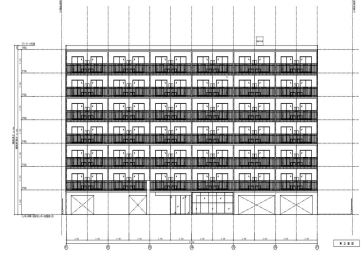




1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)クレヴィスタ上大岡新築工事	階数	地上7F
建設地	神奈川県横浜市南区別所1丁目18-1	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年3月 予定	評価の実施日	2025年6月2日
敷地面積	701 m ²	作成者	三宅 良祐
建築面積	462 m ²	確認日	2025年6月25日
延床面積	2,915 m ²	確認者	館 正文



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 0.8 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 環境効率 (Y軸) vs 環境負荷 L (X軸)	標準計算 30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★ ① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+ (kg-CO ₂ /年・m ²)	 Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア = 2.6		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2 	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.6 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.8
LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 2.9		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.0 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.0 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。		
その他 特になし。		
Q1 室内環境 開口部遮音性能:T-2以上。 そして、カーテンと庇にて昼光制御している。 また、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	Q2 サービス性能 日本住宅性能表示基準「3.劣化の軽減に関すること」で等級2相当。	Q3 室外環境(敷地内) 植栽をして良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー BEI = 0.88。	LR2 資源・マテリアル LGSとGL工法使用している。 そして、ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率86%

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要		<集合住宅>		受付日 2025年7月14日	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。				建物名称 (仮称)クレヴィスタ上大岡新築工事	
建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving		重点項目への取組(5点満点)		【省エネルギー性能】	3
■省エネルギー性能					
この建物の設計一次エネルギー消費量		12	%削減		
		再エネなし		再エネあり	
		削減率	12%	削減率	12%
		BEI値	0.88	BEI値	0.88
基準一次エネルギー(100%)					
■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)					
健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community		重点項目への取組(5点満点)		【健康・安心】	3
■室内環境対策 (⑤外皮性能)					
◆断熱等性能等級		等級4	(相当)		※複数の等級が混在する場合は最も低い等級とする。
■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)					
■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)					
◆工夫の有無		なし			
防災への配慮 (R) Resilience		重点項目への取組(5点満点)		【防 災】	3
■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)					
地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape		重点項目への取組(5点満点)		【地域・まちづくり】	2
■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)					
太陽光発電などの導入		環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)			
エネルギーマネジメントシステム導入					

CASBEE横浜2025年版v1.0
(仮称)クレヴィスタ上大岡新築工事

バージョン CASBEE横浜2025年版v1.0

スコアシート		重点項目		建物全体・共用部		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質				-	-	-	-	2.6
Q1 室内環境				-	0.40	-	-	3.2
1 音環境				-	0.15	3.3	1.00	3.3
1.1 室内騒音レベル				-	-	3.0	0.50	-
1.2 遮音				-	-	3.6	0.50	-
1 2 開口部遮音性能				-	-	5.0	0.30	-
2 界壁遮音性能				-	-	3.0	0.30	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-
2 温熱環境				-	0.35	2.5	1.00	2.5
2.1 室温制御				-	-	3.3	0.50	-
1 室温	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	-	-	3.0	0.63	-
2 外皮性能	快適・働きやすさ	健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	-	-	4.0	0.38	-
3 ゾーン別制御性	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	-	-	3.0	0.20	-
2.3 空調方式	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	-	-	1.0	0.30	-
3 光・視環境				-	0.25	3.7	1.00	3.7
3.1 昼光利用				-	-	3.4	0.50	-
1 昼光率	快適・働きやすさ		⑩光環境	-	-	5.0	0.50	-
2 方位別開口	快適・働きやすさ		⑩光環境	-	-	1.0	0.30	-
3 昼光利用設備	快適・働きやすさ		⑩光環境	-	-	3.0	0.20	-
3.2 グレア対策				-	-	4.0	0.50	-
1 昼光制御	快適・働きやすさ		⑩光環境	-	-	4.0	1.00	-
3.3 照度	快適・働きやすさ		⑩光環境	-	-	-	-	-
3.4 照明制御	快適・働きやすさ		⑩光環境	-	-	-	-	-
4 空気質環境				-	0.25	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策				-	-	4.0	0.63	-
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	-	-	4.0	1.00	-
4.2 換気				-	-	3.6	0.38	-
1 換気量	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	-	-	3.0	0.33	-
2 自然換気性能	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	-	-	5.0	0.33	-
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	-	-	3.0	0.33	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.6
1 機能性				2.4	0.40	2.6	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60	-
1 広さ・収納性	快適・働きやすさ		⑫機能性	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ		⑫機能性	-	-	3.0	1.00	-
3 バリアフリー計画	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	1.00	-	-	-
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40	-
1 広さ感・景観	快適・働きやすさ		⑫機能性	-	-	3.0	0.50	-
2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ		⑫機能性	-	-	-	-	-
3 内装計画	快適・働きやすさ		⑫機能性	1.0	1.00	1.0	0.50	-
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性				2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				2.4	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		防災	⑰信頼性	1.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		防災	⑰信頼性	2.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				3.0	0.30	2.5	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり				-	-	2.0	0.50	-
1 階高のゆとり				-	-	2.0	0.60	-
2 空間の形状・自由さ				-	-	2.0	0.40	-
3.2 荷重のゆとり				-	-	3.0	0.50	-

3.3	設備の更新性			3.0	1.00			
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20			
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20			
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10			
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10			
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)				0.30			1.8	
1	生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑩生物環境の保全と創出	1.0	0.30			1.0
2	まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑪まちなみ・景観への配慮	2.0	0.40			2.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30			2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑫地域性への配慮	2.0	0.50			
	3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑬敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性								2.9
LR1 エネルギー				0.40				3.0
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	3.0	0.20			3.0
2	自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	2.0	0.10			2.0
3	設備システムの高効率化			3.2	0.50			3.2
	集合住宅以外の評価	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化					
	集合住宅の評価	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	3.2	1.00			
4	効率的運用			3.0	0.20			3.0
	集合住宅以外の評価							
	4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用					
	4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用					
	集合住宅の評価			3.0	1.00			
	4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50			
	4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				0.30				3.0
1	水資源保護			2.2	0.20			2.2
	1.1 節水			1.0	0.40			
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
	1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00			
	2 雑排水等利用システム導入の有無							
2	非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60			3.2
	2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10			
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20			
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20			
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20			
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10			
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20			
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20			3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30			
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70			
	1 消火剤							
	2 発泡剤(断熱材等)			4.0	0.50			
	3 冷媒			3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				0.30				2.9
1	地球温暖化への配慮			3.5	0.33			3.5
2	地域環境への配慮			2.3	0.33			2.3
	2.1 大気汚染防止			3.0	0.25			
	2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50			
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25			
	1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25			
	2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25			
	3 交通負荷抑制			3.0	0.25			
	4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25			
3	周辺環境への配慮			3.0	0.33			3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
	1 騒音			3.0	1.00			
	2 振動							
	3 悪臭							
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40			
	1 風害の抑制			3.0	0.70			
	2 砂塵の抑制			1.0				
	3 日照阻害の抑制			3.0	0.30			
	3.3 光害の抑制			3.0	0.20			
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70			
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30			

上記以外の重点項目			-	-	-	-	-
<事務所用途>			-	-	-	-	-
知的生産性向上への取組			快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	-	-	-
<住宅用途>			-	-	-	-	-
健康と安心			-	-	-	-	-
1	化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-	-
2	適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-	-
3	結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-	-
4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策	1.0	-	-	-